



TITLE:

ゆまに書房 世界言語学名著選集 刊
行によせて

AUTHOR(S):

山口, 巖

CITATION:

山口, 巖. ゆまに書房 世界言語学名著選集 刊行によせて. ことばの構造
とことばの論理: 山口巖教授停年記念論文集 1998: 817-817

ISSUE DATE:

1998-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65754>

RIGHT:

ゆまに書房
世界言語学名著選集
刊行によせて

人の思想は大河のようでもあり、泉にも似ている。それは湧き出る源を蒐めて滔々と奔るかと思えば、やがて分かれて伏流し、新たな泉に到る。言語に関していえば、たとえ一見全く関係がないように思われようとも、仔細に見ればそこにフンボルトの影の射していないものはないと思われる。近年の科学的思考の成果は著しいにしても、もし科学性を尊ぶの余り、客観性をのみ呼号してゆとりを失うことになれば、それは科学的社会主義の末路にも重なるであろう。思想の淵源を訪ねることはいつの世でも大切なことではあるが、思考のパラダイムが問われつつあるいまこそ、これが最も必要とされる秋ではあるまいか。

この度ゆまに書房が世界言語学名著選集の復刻を企画されるという。選定されたものは、何れも大河と深く関わるものばかりである。誠に時宜にかなった試みとして、大いに賛意を表したいと思う。